

バイオフィードバック技能士認定講習会(工学系)6月21日(土)11:00~12:00

【演題名】

病院内の医療機器へのバイオフィードバックの活用の可能性～臨床工学技士の立場から～

【発表者名】

○南谷克明1)、宗万孝次1)、及川欧2)

【発表者名詳細】

1) 旭川医科大学病院 診療技術部 臨床工学技術部門

2) 旭川医科大学病院 リハビリテーション科

【抄録】

我々臨床工学技士は、「生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする者」であり、一般的な医療職の中では知名度は高い職種とは言えないが、中～大規模病院における医療機器管理においては必要不可欠な存在である。その臨床工学技士が扱う機器としては、一般病棟で使用する生体情報モニタから、シリンジポンプ、集中治療室で使用する人工呼吸器、補助循環装置、手術室で使用する電気メス、手術支援ロボットなどがあり、その業務は多岐にわたる。

多くの医療機器に携わる臨床工学技士ではあるものの、バイオフィードバックという概念は馴染みが薄いのが実情である。しかし、この分野を学んでいくと「あれ？これはバイオフィードバックじゃないか！？」という場面に度々遭遇する。知らず知らずのうちに、医療機器の中にはバイオフィードバックが組み込まれているものもあり、臨床工学技士とバイオフィードバックとは繋がっているのである。院内のデジタル化が促進される今日においては、その繋がりがより顕著なものとなっていくものと推察する。

今回、我々臨床工学技士という立場から、病院内でどういった医療機器が使用されているのか、バイオフィードバックの可能性を交えて紹介したい。